

再開発計画 概要

熊本大学医学部附属病院は病院再開発の基本理念のもと再開発整備を進めており、平成14年に西病棟（病棟1期）、平成18年に中央診療棟、平成22年に東病棟（病棟II期）、平成26年に外来診療棟が完成している。平成27年現在、管理棟・看護師宿舎が改修工事中であり、本年度完成予定である。平成28年度より旧管理棟他の取り壊しが始まり、平成32年度までに屋外環境整備を行う計画である。また、平成30年度には高エネルギー治療・RI施設（仮称）を新築する計画である。

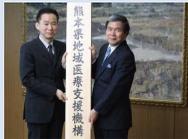
病院再開発の基本理念

「心の通う病院」

高度先進医療の充実

地域医療の中心的役割

医療スタッフの育成
研究・開発の推進



基本構想

高度先進医療機関としての機能強化

- ◆臓器・系統別診療体制の確立
- ◆重症度・治療内容別診療体制の確立
- ◆高度先進医療技術

臨床教育・臨床機関としての充実

- ◆専門修練医の臨床及び地域医療人向けの研修プログラムの開発・充実
- ◆高度・専門性に対応した医療の教育・研修（がん、生活習慣病、再生・再建医療等）
- ◆ベッドサイドティーチングの充実
- ◆コ・メディカル委員への臨床学習の充実

地域医療への貢献

- ◆地域医療機関との連携
- ◆高次救急医療体制の強化
- ◆周産期医療(NICU・GCU、MFICU)の充実
- ◆予防医療、在宅医療への対応
- ◆災害対策拠点病院としての強化

診療体系・事務機構効率化の推進

- ◆患者プライバシー・アメニティの改善
- ◆業務の改善合理化
- ◆医療情報の充実

再開発のコンセプトと施設への反映

医療関係の高度化・多様化への対応

- 各種拠点機能病院（がん、エイズ等）としての機能強化
- 先端医療支援セクター（移植セクター等）の設置
- 予防医療の拡充
- 横断的医療サポートチーム（ICT等）の拡充
- 手術室、重症病床（ICU・HCU・CCU）の充実

患者医療環境の整備

- 光を取り入れ患者アメニティに配慮
- 病院動線の短縮・明確化
- 分散トイレの設置
- 患者プライバシーへの配慮
- 食堂・テイルームの設置

教育・研究スペースの確保

- 各病棟に教育、カンファレンスルームの設置
- ベッドサイドティーチングスペースの確保
- 教員室の充実
- 治験支援センターの設置
- 寄附講座の開設・充実

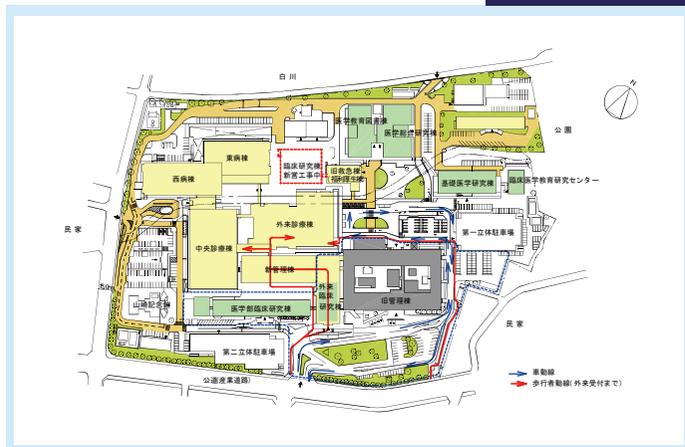
防災・救急医療への対応

- 廊下、カンファレンスルームに医療ガス設備の設置
- 建物の免震構造の採用
- 大規模震災時の資材などの備蓄スペースの確保

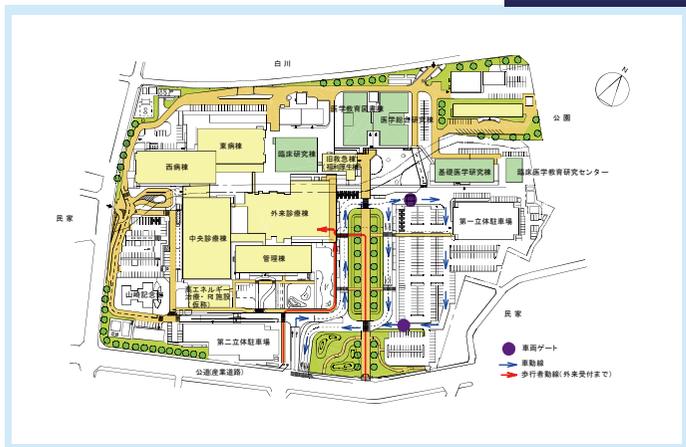
情報化の進展への対応

- 医療情報部の強化による病院全体の情報化支援基盤の機能強化
- 院内情報共有化
- 地域医療機関との情報連携の強化

病院地区の現状



病院地区の将来像



病院地区の将来イメージ図



年次計画表（予定）

年次計画	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
新管理棟改修		■					
看護師宿舎耐震改修			■				
東病棟12階増築			■				
高エネルギー治療・RI施設（仮称）新営					■		
基幹・環境整備		■	■	■	■	■	■
臨床研究棟新営		■					

層構成図

